

国語科学習指導案

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成25年1月〇日 (〇)

2 学年・組 第2学年〇組

3 指導事項

(1) 話すこと・聞くこと オ

- ・ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (ア)

- ・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

4 単元名 聞き合おう、わたしのたからもの

5 言語活動 話すこと・聞くこと イ 尋ねたり、応答したりすること。「めざせ☆☆☆！」

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 自分や友達の宝物の紹介に興味をもち、話したり質問に答えたりして話し合おうとしている。	○ 友達から出た意見を基に質問したり、似ている質問を付け加えたりして、話題に沿って話し合っている。	○ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。

7 単元について

○ 児童の状況

- ・ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと：これまで、1分間スピーチやクイズの時間を設けるなどして、全体場で話したりそれを聞いて質問したりする取組を継続して行ってきた。そのため、みんなの前で話すことや友達の話に対して質問したり感想を伝えたりすることについて積極的に活動することができる児童が増えている。また、尋ねることで物事の様子がより明らかになるように質問をすることができる児童も増えてきた。しかし、一問一答での応答にとどまっておろ、他の児童の発言につなげたり、同じ話題で複数の質問をしたりすることに対しては課題が残る。話合いの形態としては、これまで一対一で対話をするが多かったが、ペアで意見交流をする中で、「いろいろな意見を聞きたいので、グループで話し合いたい。」といった声が出るが増えてきた。複数で行う話合いのよさ、おもしろさに気付く児童が少しずつだが増えてきている。一方で、複数での話合いに戸惑いがある児童もいる。考えた事を発言するために十分な時間を必要とし、発言回数が少なくなってしまう児童がいるため、発言回数の少ない児童から発言するよう譲り合いながら、全員が発言できるように言葉かけをしている。また、失言があった場合には責めるのではなく、励ますように言葉かける児童もいるが、時に口調が厳しくなり、話合いが思うように進まなくなってしまうことがある。肯定的な言葉かけや安心して話せる雰囲気をお大切に話合いを進めることができるよう取り組んでいるところである。
- ・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこ

と：これまで、内容を具体的にとらえるために「5W1H」「形・色・大きさ」等の観点で表現する学習をしてきており、このことについて意識をもっている児童が多い。「経験したこと」については、テーマについて思いを巡らせ、経験した事を伝えることができるようにする段階的な手立てが必要な児童がいる。

○ 教材の価値

- ・ 教材文「聞き合おう、みんなのたからもの」：児童にとって身近であり、魅力的な宝物について、グループで話し合うという内容である。自分の宝物には愛着があり、自信をもって話すことができるだろう。しかし、それが自分にとってなぜ宝物なのかを客観的にとらえ、友達に説明する経験は少ないはずである。宝物を紹介し、質問される双方向のやりとりを取り入れることによって、様々な観点から宝物のよさを再確認することができる。また、このようなやりとりを繰り返す中で、話し合うことへの抵抗を少なくし、意欲を高める契機となる教材である。
- ・ 言語活動「めざせ☆☆☆！」：これまで、対話形式で感想を話したり質問したりする学習を行っているが、本単元ではこれを複数で行う。一人が発言したら、他の児童がそれに対して繰り返し言ったり、質問したり、感想を述べたりする。はじめに伝える情報をあえて少なくしておくことで、聞き手は宝物のことを詳しく知るために、質問をしなければならぬという状況を設定する。話合いの間は、それぞれの発言内容をしっかり聞き、受け入れながら内容を深める質問をしたり、自分の質問や感想を言ったりして能動的に聞き合うことが大切である。話合いの基本として、人の話を集中して聞き、話題に沿って話し合う力を身につけることを目指したい。「今、話題になっていることは何か。」「自分のことと比べながら聞いているか。」「自分の感想を言ってから尋ねているか。」「分からなかったことを尋ねているか。」「友だちが尋ねたことに付け加えて尋ねているか。」を重点に据える言語活動として、「めざせ☆☆☆！」を設定した。相手の話をしっかりと受け入れたうえで内容を深める質問をしたり、自分の感想を伝えたりしながら能動的に聞き合わせやすい活動になると考える。

○ 指導の工夫

- ・ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと：まずは自分の大切な宝物についてみんなに知らせ、興味をもってもらうことができるよう、宝物についてしっかりと振り返る時間を設定する。集中して聞くことに課題がある児童がいるため、視覚支援として、宝物の絵を準備させ、イメージしながら聞くことができるようにしたい。また、グループで話し合う前に、話題に沿って話し合うためには、どのような尋ね方や傾聴姿勢がよいのか確認させ、しっかり当事者意識や自信をもたせるようにしたい。二次の話合いの場面では、「話合いグループ」と、その話合いを聞き、上手にできているところを評価する「ほめほめグループ」（肯定的に評価するグループ）を作る。話合いを進めるうえで大切にしたい「5W1H」「形」「色」「重さ」「大きさ」等をワークシートに提示して「話合いグループ」の中心に置き、今話題になっていることを視覚的に確認しながら話し合い、同じ話題で複数の質問をつなげられるようにしたい。また、いろいろな観点で話合いが進む視覚的支援にもなると考えている。「ほめほめグループ」は、話合いをしている児童の後ろで話合いを聞き、誰がどんな観点で話合いに参加しているかをモニターする。自分とペアになっている児童が話したことやその他よかったことなどを伝えさせることで、客観的に話合いを振り返ることができるようにしたい。また、評価カードとして「目指せ☆☆☆！」を使って、よりよい話合いの仕方を考えさせるようにしていきたい。
- ・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと：話合いをする前に、宝物についてしっかりと考えを深めさせておきたい。そのために自分の気持ちを整理させ、自分自身の宝物に対する思いを事前に明確にさせておくようにする。そのことを通して、事物の内容を表すための語彙や経験したことを伝えるための語彙をまとめていきたい。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	評価の観点		
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	全文を通読し、学習の見通しを立てる。 ・ 学習のめあてを知り、学習全体の見通しをもつ。 (行動観察・発言)	○		
二	2	自分の宝物を考える。 (行動観察・発言・ワークシート)	○		○
三	3	グループでの話合いの仕方やポイントを確かめ、練習する。 (ワークシート・行動観察)	○		○
	4 5	質問したい項目を考えながら宝物について話し合う。 ・ 「5W1H」「大きさ・色」など 細部を尋ねる (ワークシート・行動観察)		○	
	6 7	グループで宝物について話し合う。 (ワークシート・行動観察) 本時7/8		○	
四	8	話し合った感想をカードに書いて交換し、宝物を見せ合う。 (ワークシート・行動観察)			○

9 目標（話すこと・聞くこと 三次7時）

- 友達の発言にさらに付け加えて尋ねながら、話題に沿って話し合うことができる。

10 本時の学習展開（話すこと・聞くこと 三次7時）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確認する。	○意欲的に尋ねさせるために☆の数を確認させる。	
<p>「めざせ☆☆☆！」（『つなげて話し合おう』のまき）</p> <p>～友だちの宝物がよくわかるように、みんなで聞き合おう～</p>		
2 前半グループから宝物について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たからもの」について聞き手に関心をもたせるために、絵を見せながら話をさせるようにする。 ○ 前時までに学習した話し合い方を想起させ、大切にしよう意識付ける。 ○ 「つなげて」尋ねることができていたときには肯定的な評価をし、本時の目標についてしっかりと意識させる。 ○ 「つなげて」尋ねることができた場合は、自分で☆☆☆カードを提示させ、みんなで☆☆☆カードを増やすことを意識付ける。 <p>C児童への手だて：友だちの宝物についてより詳しく尋ねさせるために「話し合い」ヒントカードを参考にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ほめほめグループは、聞き手が付け加えて尋ねているかどうか、聞き手の内容をよく聞かせ、☆☆☆カードにメモをさせる。 	<p>A：宝物について詳しく知るために、友達の発言に付け加えたり、自分と比べたりしながら尋ねることができる。 (行動観察・☆☆☆カード)</p> <p>B：宝物について詳しく知るために、友達の発言に付け加えて尋ねることができる。 (行動観察・☆☆☆カード)</p>
3 グループ毎に話し合いについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いグループで「つなげて」尋ねることについて振り返る。 ○ 聞き手はほめほめグループから、よかったところを聞き、グループで「☆☆☆」になったかどうか確認させる。 	
4 前半グループのよかったところを発表する。		
5 後半グループの話し合いをする。		
6 グループ毎に話し合いについて振り返る。	○ 今日の話し合いのよかったところについて振り返りをさせ、学習を通して力が伸びたところや感想を書かせる。	
7 学習の振り返りをする。		